

□■養成所ニュースプラス第 21 号 2023□■

第 35 期生の皆さんは、2 学期のテキスト学習の総仕上げ、レポート提出期間が 15 日から始まります。第 16 号でもお伝えしましたが、「社会福祉調査の基礎」では「リサーチクエスト」の設定は必須です。提出前には、文章作法や引用・参考文献表示、レポート評価票のつけ間違い等確認してください。

今回は、「福祉サービスの組織と経営」からリーダーシップについての問題です。今回も選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるか合わせて考えてみましょう。

■Plus Quiz

【第 34 回問題 121】リーダーシップに関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1. リーダーの個性に着目した特性理論は、「リーダーを務める人は、もともと他の人と資質・人格に差がない」という前提に立つ理論である。
2. ハーシー (Hersey, P.) とブランチャード (Blanchard, K.) は、部下の能力や成熟度の度合いが違っていても、リーダーシップのスタイルを変えるべきではないと指摘している。
3. パス・ゴール理論では、リーダーはメンバーに明確な目標 (ゴール) へのパス (経路) を明示せず、メンバー自身を考えさせることが必要としている。
4. サーバント・リーダーシップは、リーダーがカリスマとなってフォロワーに奉仕させるリーダーシップである。
5. シェアード・リーダーシップは、それぞれのメンバーが、必要に応じてリーダーのように振る舞って他のメンバーに影響を与えるリーダーシップである。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

- ・ (34 期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・ (35 期生) 教育訓練給付制度 (専門実践教育訓練) の支給希望の方へ
「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。
- ・ (35 期生) 見込書類 (実務経験証明書) のさしかえについて
入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。
- ・ 受講の手引の表紙裏 (表紙の次のページ) に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・ (35 期生) 3 学期レポート課題の <テキスト・参考文献> 表記に誤りがありましたので、ホームページに訂正を掲載しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1145434&c=3246&d=99c7>

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・ 第 36 回国家試験は、令和 6 年 2 月 4 日 (日) です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1145435&c=3246&d=99c7>
- ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です (9 月 15 日申込締切)。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1145436&c=3246&d=99c7>

※締切を過ぎましたが、在宅受験は受付中です。詳しくは上記ホームページをご確認ください。

- ・ 本養成所主催、「受験対策講座」は web にて順次公開予定です。

第 34・35 期生の皆様にご案内を郵送しておりますので、内容をご確認の上、ぜひ受講してください。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1145437&c=3246&d=99c7>

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1145438&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1145439&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第 12 号／皆さんの声から】

今回は、修了生の皆さんからの声をお伝えします。合格した先輩は、この時期をどのようにすごしていたのでしょうか。

まずは、10月、11月をキーワードに紹介します。国家試験後に振り返れば「もっと早く始めていれば」と感じるわけですが、どうもこの時期が、本気モードに切り替える最後のタイミングでもあるようです。「10月くらいから休日に勉強し、年末くらいからスイッチが入って2時間くらいは自習していた。」「なかなか試験勉強を始めることができず...結局、10月後半から勉強を始めました。」

この時期から始めた場合、どのように勉強したのでしょうか。こんな先輩もいました。「総勉強時間を設定し、毎日進捗をカレンダーに記入していった。300時間、1日平均3時間、100日(約3か月)」「中央法規の最後の合格プランを11月中旬からスケジュールどおりこなした。社会人はお金で時間とタクティクス(戦術)を手に入れるのが得策と思う。」来週末には、中央法規が提案する最後の受験対策講座のDMを発送予定です。詳細は次号で紹介します。

次は、模擬試験をキーワードに紹介します。合格した先輩も、模試では合格基準点をとれていたわけではなかったようです。「よく勉強しないまま10月に模試を受けて24点。試験の全体像が分かった。」「模擬試験を解いた。55%台だった。」「10月の国家試験受験集中講座でエンジンが掛かり、11月の模試で70点、12月の模試で80点、本番で91点とステップアップできた。」

それでは、模試をどのように活用したのでしょうか。「9月には受けてスタート地点の苦手、得意分野の確認をした。」「苦手科目の確認や学習の進捗の把握ができた。」「時間配分をつかむことができた。」「必ず受けた方が良い。特に時間配分、問題を解くペース配分は体験し、練習した方が良い。」「模試も過去問同様5回見直した。」と言います。

模試を受けるタイミングも大事なようです。「10月の模試はポロポロだったが、自分の実力とどこに力を入れてやればいいかがわかるので、あのタイミングでの模試は絶対におすすめ。」そして、単調になりがちな受験勉強のアクセントにも活用していました。「ひたすら模試を受ける(小さなヤマを沢山つくる)」「過去問→自主勉強→模試→過去問→自主勉強→一問一答。毎日1~2時間の自主勉強、土日は自習室にいて集中勉強を行った。」

なかなか計画どおりにいかない、時間をかけた成果が実感できない、仕事や家事が忙しくて時間が取れないという皆さん、合格した先輩からのエールを受け止めていただけるとうれしいです。決して諦めずに「その日」を迎えてほしいと思います。

【Plus Quiz 正答と解説】

10月10日は、メンタルヘルス問題に関する世間の意識を高め、偏見をなくし、正しい知識を普及することを目的とした国際デー(国際記念日)「世界メンタルヘルスデー」でした。

こころの病気は生涯を通じて5人に1人がかかるともいわれているようで、誰もがかかる可能性があります。社会福祉や教育、看護等の仕事は、感情の抑制、緊張、忍耐等のコントロールが必要な感情労働であり、精神的負荷がかかりやすいとされています。

「福祉サービスの組織と経営」を学ぶことで、皆さん自身と皆さんの周囲の方を守るヒントを得ることができます。働

きやすい労働環境の整備について、職場組織の管理運営や集団力学に関する基礎理論、リーダーシップに関する基礎理論等から理解を深めてください。

リーダーシップとは「職場やチームの目標を達成するために他のメンバーに及ぼす影響力」をいいます。この研究は、リーダーに共通する能力や資質に着目する「特性理論」、リーダーの行動に着目する「行動理論」、状況に応じてリーダーがとるスタイルが変わる「コンティンジェンシー理論（状況適合理論）」と時代と共に移り変わってきました。様々な用語がありますが、皆さんの日常にひも付けてみると理解が進むと思います。詳しくは、社会専門テキスト1「福祉サービスの組織と経営」の第2章第3節を確認してください。

この科目の中項目「集団の力学に関する基礎理論」と「リーダーシップに関する基礎理論」は、この5年間でそれぞれ3問の出題があり、「適切なサービス提供体制の確保」では「リスクマネジメント」「苦情収集」「福祉サービス第三者評価事業」等4問が出題されています。

1. ×特性理論は、リーダーになれる人となれない人の差を、身体的特徴や性格特性の違いに見出そうとするアプローチです。リーダーにふさわしい特有の資質があるという前提に立ちます。
2. ×ハーシーとブランチャードが提唱した「SL（状況的リーダーシップ）理論」は、部下の能力と意欲の程度に応じてリーダーシップ行動を変化させる必要があるとしました。
3. ×ハウスが提唱した「パス・ゴール理論」は、有能なリーダーは、経路や道筋を明確に示して部下の業務目標達成を助けるという考え方に基づく理論です。やるべきことが不明確な場合は、タスク志向の指示的リーダーシップが有効であり、やるべきことが明確な場合、仕事が単調になるので関係志向の支援的リーダーシップが有効とされています。
4. ×グリーンリーフが提唱した「サーバント・リーダーシップ」は、リーダーはまずメンバーに奉仕し、その後相手を導くものという考えに基づいています。リーダーがメンバーの職務や成長を支援することから、メンバーの内発的動機付けや職場の協力的行動につながるとされています。
5. ○「シェアード・リーダーシップ」は、共有型リーダーシップや分散型リーダーシップともいわれ、職場のメンバーが必要なときに必要なリーダーシップを発揮し、誰かがリーダーシップを発揮しているときには、他のメンバーはフォロワーシップに徹するような職場の状態を指します。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus